

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅲ Social Work Seminar Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家資格取得のための必修科目)	社会福祉フィールド以外、履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目や社会福祉学に関連する科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助演習Ⅰ・Ⅱで学んだ個人を対象とする基本的なコミュニケーション技術の習得を踏まえ、個人や集団を対象とした基本的な面接技術の習得する。				
授業の目標				
①利用者主体の援助および利用者理解について事例を通して検討・考察することをできるようにする。 ②相談援助場面における基本的な面接技術の習得と、自分自身を振り返る力を涵養することをできるようにする。 ③プレゼンテーションに際し、創意・工夫をできるようにする。				
授業の方法				
演習形式で行う。必要に応じて小テストを実施する。 社会的排除、虐待、家庭内暴力等に関する事例研究とグループディスカッションを実施する。また面接技術習得のためのロールプレイングも行う。				
学習の成果（学習成果）				
①相談援助場面で利用者理解を深める基本的な面接技術を身につけることができる。 ②利用者主体の援助のために相談援助専門職としての課題を検討することができる。 ③検討したことを他者に伝える能力を養い、また相互交流によって多面的に学ぶことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等） 相談援助演習Ⅱの振り返り			
第2回目	事例研究：児童虐待の被害者に対する支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング			
第3回目	事例研究：児童虐待の被害者に対する支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア			
第4回目	事例研究：低所得者に対する支援 インテークから終結まで			
第5回目	事例研究：社会的排除された人への支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング			
第6回目	事例研究：社会的排除された人への支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア レポート「相談援助のプロセスについて」提出は第7回の授業日			

第7回目	利用者理解モデルとエンパワーメント
第8回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスの被害者に対する支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング
第9回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスの被害者に対する支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア
第10回目	事例研究：アウトリーチを要する危機状態の利用者への支援
第11回目	事例研究：接近困難な事例（1） 多動や他害行動における発達障害児への事例
第12回目	事例研究：接近困難な事例（2） 知的障害児における思春期へのアプローチ
第13回目	効果測定と関わりの振り返り
第14回目	社会資源の活用・調整・開発
第15回目	授業のまとめ 利用者主体の援助のための面接技術について
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	以下の点で評価します。授業の準備を整え、遅刻せずに出席していること。演習への積極的な参加。演習の目的を理解できていること。
レポート	40%	授業・演習テーマ、意図に即した振り返りシートで、学びを確認する。評価Sは、授業内容を踏まえ、自分自身の振り返り、自己覚知がなされていること。
調査報告書		
小テスト	30%	單元ごとに確認テストを行う。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

「ソーシャルワーク演習ワークブック」相澤穰治・植戸貴子／みらい

履修上の留意点・ルール

私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。